〈幼稚園教育〉

# 一人一人のよさを生かしながら協同して遊ぶようになるための環境構成や援助の工夫
## ～共通の目的に向かって一緒に遊ぶことを通して～

八重瀬町立白川幼稚園教諭　**神　里　真　利　子**

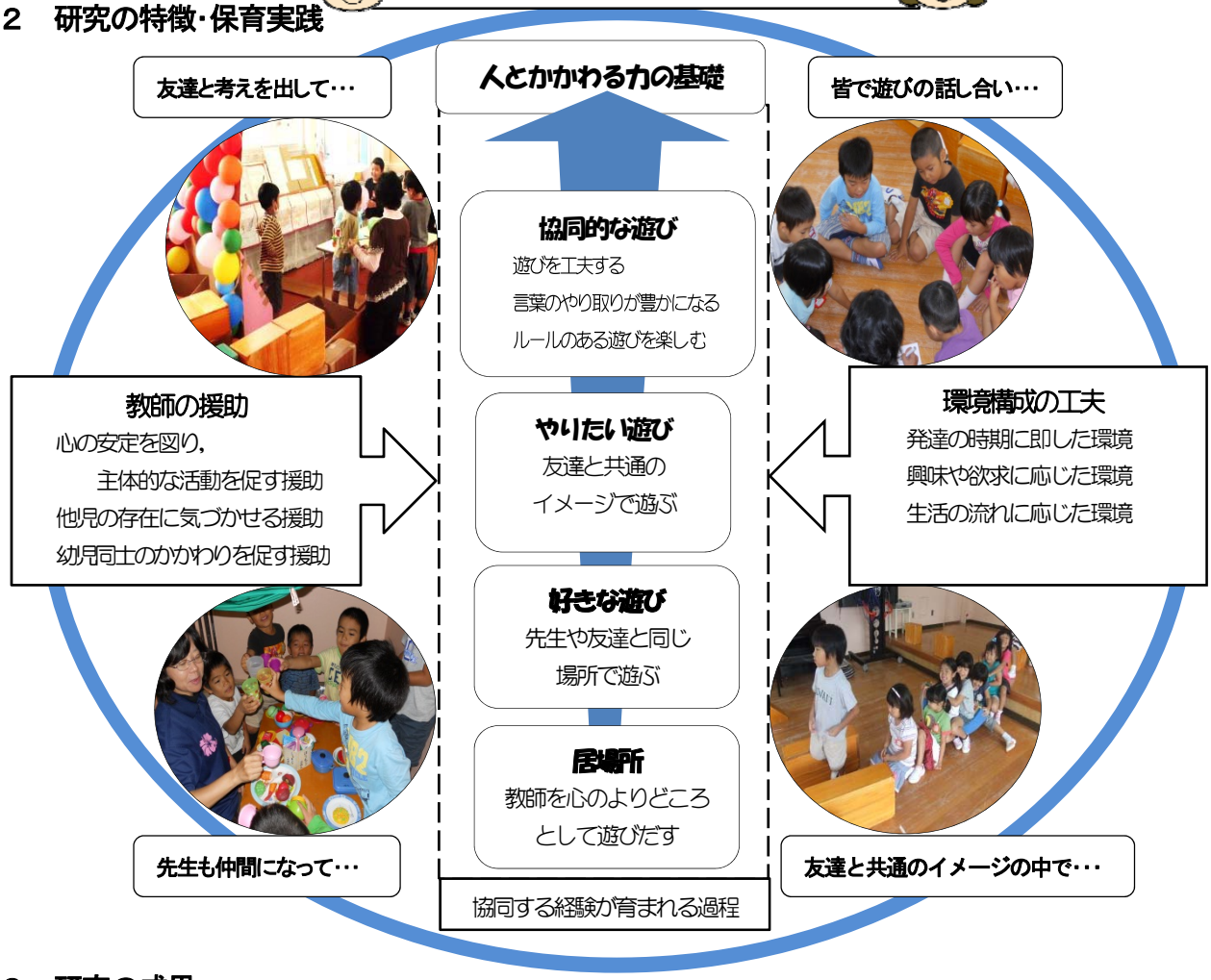
## 1　研究テーマについて

これまでの保育を振り返ると，一人一人の幼児の特性を捉えながらかかわりをもつよう心がけてきたものの，集団の中で個のよさや育ちを捉えることや幼児一人一人のよさが発揮されるような経験やいろいろな遊びを生み出すための環境構成や援助をしてきだろうかと課題がある。

そこで、共通の目的に向かって一緒に遊ぶことを通して，幼児一人一人のよさを生かしながら協同して遊ぶようになるための環境構成や援助の工夫を研究したいと考え本テーマを設定した。

一人一人がよさを発揮し協同して遊ぶ

## 2　研究の特徴･保育実践




## 3　研究の成果

教師が幼児の思いを受け止め，心の動きや興味，関心に沿った環境構成や援助の工夫することで，幼児は安心して自ら進んで友達とかかわりをもつことができるようになってきた。また，教師がありのままの幼児の思いや行動を認め温かく受け入れる姿勢により，幼児のよさが集団の中で発揮され，次第に友達と何かをして遊ぶのって楽しい，また友達と一緒に遊びたい，自分とは違う考えがあるんだということに気づきながら，友達と遊びを工夫したり協力したりする楽しさを味わうようになり，協同して遊ぶことができるようになってきた。

〈幼稚園教育〉

# 一人一人のよさを生かしながら協同して遊ぶようになるための環境構成や援助の工夫

## ～共通の目的に向かって一緒に遊ぶことを通して～

八重瀬町立白川幼稚園　神里　真利子

## Ⅰ　テーマ設定の理由

近年子どもの育ちについては，基本的生活習慣の乱れ，他者とのかかわりが苦手，自制心や規範意識が十分に育っていないなどの課題が指摘されている。この背景として，少子化，核家族化，情報化，人間関係の希薄化などの社会変化により，子ども同士が直に触れ合い，刺激し合いながら家庭や地域で育ちあえる環境が減少してきているという現状がある。

今回，幼稚園教育要領改訂の中で，とりわけ重要視されているのが領域「人間関係」である。その中でねらいの一部が変更され，「人とかかわる」だけでなく，「かかわりを深める」という記述になり，より進んだ内容が求められることとなった。新たに追加された内容は，「(8)友達と楽しく活動する中で，共通の目的を見いだし，工夫して協力したりなどする。」という事項で，いわゆる「協同する経験」といわれるものである。それに関連し，「内容の取扱い(3)」に，「幼児が互いにかかわりを深め，協同して遊ぶようになるためには，自ら行動する力を育てるようにするとともに，他の幼児と思考錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうようにすること。」という文章が加わっている。このような協同の経験を重ねる事が後の小学校生活の基盤になるという考え方に基づくものである。このことから,遊びを通して幼児同士がいざこざなどの葛藤体験や充実感や達成感,時には挫折感など様々な感情体験をすることなどを通して人とかかわる力を育み,協同して遊ぶようになるであろうと考える。

本園の幼児の実態は，集団生活の経験がある子が多い。入園当初から気の合う友達と一緒に遊びを楽しむ子もいれば，自分の思いや気持ちを言葉で伝えたりすることが苦手な子もいる。また，遊びの中で自我を通そうとして友達の思いを聞かずに遊びを進めたり，自分の思いが通らないと遊びから抜け出してしまう姿や気の合う友達とのつながりを楽しむだけで，互いに工夫して遊んだりすることができないなどの姿もある。

これまでの自身の保育を振り返ってみると，一人一人の幼児の特性をとらえながらかかわりをもつよう心がけてきたものの,集団の中で個のよさや育ちをとらえることが十分でなかったように思う。また，集団の中で，一人一人のよさが発揮されるような経験や幼児がいろいろな遊びを生み出すための環境構成や援助を大切にしてこなかったのではと反省や課題がある。

そこで，本研究では，友達と共通の目的に向かって一緒に遊ぶことを通して，一人一人のよさを生かし協同して遊ぶようになるための環境構成の工夫や援助を図りたい。そのためには幼児一人一人が自己発揮し，互いのよさを認め合いながら友達と一緒に遊びを進める経験を積み重ねる中で，教師が幼児の思いを受け止め，幼児同士が互いに思いを伝え合うことができるような援助をする。そうすることで，幼児が相手の思いに気づいたり折り合いをつけたりするようになり「一人一人のよさが生かされ協同して遊ぶようになる」であろうと考え，本テーマを設定した。

## Ⅱ　研究の目標

一人一人のよさを生かし，協同して遊ぶようになるための環境構成や援助のあり方を工夫する。

## Ⅲ　研究の方法

保育実践の園生活の遊びや生活の中で，次の方法で行う。

**1**　一人一人のよさをとらえ，集団の中でよさを生かす環境構成の工夫や援助をする。

**2**　幼児同士の思いや考えが伝え合えるような環境構成の工夫や援助をする。

## Ⅳ　研究構想図

**めざす幼稚園像**
○一人一人が安心して楽しく遊びができる幼稚園
○一人一人がその子らしく自己発揮できる幼稚園
○花と緑がいっぱいのきれいな幼稚園
○家庭や地域から信頼される幼稚園

**本園の教育目標**
㋓・・しなやかな心と体
㋺・・らしさ(個性)を発揮して遊ぶ子
㋕・・考えて行動する子
�わ・・わがままをしない

**本年度の重点目標**
○基本的な生活習慣の定着している子
○自己発揮して遊ぶ子
○物事に意欲的に取り組む子
○友達と仲良くできる子

**めざす教師像**
明るく笑顔で，楽しく
○幼児の良き理解者としての教師
○温かな愛情と厳しさをもって対応する教師
○専門性を磨き，創意工夫に努める教師

**学年目標**
4 歳　自分の考えたことや感じたことを身体で表現し，先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
5 歳　友達と協力し，工夫しながら遊びや仕事を最後までやり遂げようとする。

**学級目標**
○自分らしさを発揮し，友達のよさに気づいて互いに力を合わせながら生き生きと活動できる子

**研究テーマ**
一人一人のよさを生かしながら協同して遊ぶようになるための環境構成や援助の工夫
～共通の目的に向かって一緒に遊ぶことを通して～

**研究目標**
一人一人のよさを生かし，協同して遊ぶようになるための環境構成や援助の在り方を工夫する。

**幼児の実態**
・自分の思いを言葉で伝える事が上手くできない。
・自己主張が強い。
・気の合う友達とのかかわり合って遊ぶ。

**保育実践**

**保育の見直し**
・幼児理解を深める。
・集団の中で個の育ちを発揮させる援助の工夫をする。
・幼児同士が遊びを作り上げていく経験や場つくりの工夫をする。

**研究方法**
1　一人一人のよさをとらえ集団の中でよさを生かす環境構成の工夫や援助
2　幼児同士の思いや考えが伝え合えるような環境構成の工夫や援助

**研究のまとめ**
成果と課題

**研究内容**
1　一人一人のよさを生かすとは
2　協同して遊ぶについて
3　協同する経験を深めるための環境構成や援助のあり方について
4　教師の読み取りの視点と協同する経験，具体的援助について

## Ⅴ　研究の内容

### １　一人一人のよさを生かすとは

#### ⑴　一人一人のよさとは

一人一人のよさとは，一人一人が持っているその人らしさ，持ち味であり，思考や判断，表現などにおいてその子らしくいられることであり，身近な人とのかかわりの中で発見され，周りの人たちから褒められ，認められることによって自覚化されたり，伸びたりしていくものである。

森上史郎(1996）は，「その子のよさは，親や保育者とかかわり，あるいは仲間とのかかわりの中で発見されたり，磨かれたりしながら次第にはっきりとした形であらわしてくるものであり，とくに大人がそこでどうかかわるかということで,個性やその子らしさというものは大きく影響される。」と述べている。

#### ⑵　一人一人を生かすとは

西久保礼造(1995)は,「ひとりひとりを生かすとは，ひとりひとりの幼児の中に潜んでいる可能性を最大限に発揮できるようにしながら，それぞれの幼児がその幼児なりに充実した生活を送れるようにすることである。」と述べている。

一人一人のよさが生かされた集団を形成するためには，まず教師が，幼児の心に寄り添い，その幼児のよさを認めることが大切である。教師の重要な役割の一つは，教師と幼児，さらに，幼児同士の心のつながりがある温かい集団を育てることである。また，幼児は様々な人と出会うことで自分とは異なる様々な個性をもった友達と接したり生活したりする中で，互いの特性に気づくようになり，遊びの中で互いによさが生かされ一緒に活動する楽しさを味わうようになってくる。そのためには，一人一人のよさや可能性を見出し，その幼児らしさを損なわず，ありのままを受け入れる教師の姿勢が大事であると考える。

### ２　協同して遊ぶについて

#### ⑴　協同するとは

友定啓子(2008）は,「協同するとは，ただ単に子どもたちが一緒に何かをすることという意味ではなく，一人一人の子どもが自己を発揮し，相互に調整し合いながら，新しいものをつくり出していくという過程である。」と述べている。

協同するとは，みんなと同じ行動ができる，教師の指示に従うこととは質の違う体験であり，友達と一緒に何かを作り出す面白さやそれに至る試行錯誤の体験を通して，集団の中で一人一人が自己発揮しているか，相互に伝え合いが起こり，その過程で一人ではできないような充実した活動が生まれているかというようなことが重要である。

#### ⑵　協同して遊ぶまでに

幼児が協同して遊ぶようになるためには,まず一人一人がその子らしく遊ぶことができるように,自発性を育てることが基盤におかれなければならないとある。幼児は，教師や他の幼児とのかかわりの中で自発性を獲得していく。

協同する経験を重ねることで，友達と一緒に何かをすることはおもしろい，友達と一緒なら一人ではできないこともできる，考えが違うこともあるけれど，一緒にいると楽しいなど，子どもが自分や友達，集団に対しておおむね肯定的に捉えられるようになるのである。

幼児は他の幼児と一緒に楽しく遊んだり活動したりすることを通して，互いのよさや特性に気付き，友達関係を形成しながら，次第に人とのかかわりが広がり深まっていく。人とのかかわりが深まるにつれ幼児同士がイメージを共有し，それを実現しようと，時には自己主張がぶつかり合い，折り合いを付けることを繰り返しながら，工夫したり，協力したりする楽しさや充実感を味わうという経験を重ねていく中で，仲の良い友達だけではなくいろいろな友達と一緒に，さらには，学級全体で協同して遊ぶことができるようになっていくのである。このように長い時間をかけて育てて

いった結果，園生活の後半において，「協同して遊ぶ」ことが可能になってくるのである。

## ３　協同する経験を深めるための環境構成や援助の在り方について

幼稚園教育要領解説(文部省)を参考に以下のようにまとめた。

### (1) 環境構成の工夫の在り方

①　発達の時期に即した環境の構成

・　幼児が安心して自分の好きな遊びに取り組めるように物や場を整え居場所つくりをし，安心感を持たせるような環境の構成を工夫する。

②　興味や欲求に応じた環境の構成

・　幼児の遊びのイメージ，興味や関心の広がりを感じ取りながら，そのイメージを実現できるような空間の在り方や遊具の配置や用具，素材の準備や配置を考慮する。

③　生活の流れに応じた環境

・　幼児の前日の遊びが楽しかった経験が，翌日も続きをして遊びたいという興味や意識の流れを大切にした活動になるような環境の構成を工夫する。

### (2) 教師の援助の在り方

①　幼児が心の安定を図り，主体的な活動を促す援助（居場所・好きな遊び）

ア　教師は一人一人の幼児に思いを寄せ，幼児の気持ちや欲求などの目に見えない心の声を聴き内面を理解し教師や友達と十分触れ合い，安心して園生活を過ごせるような援助をする。

イ　一人一人の遊びが充実し，自分らしく心が動いて，自己発揮し自信につながる援助をする。

ウ　教師がありのままの幼児の思いや行動を認め，その思いが受け止められた喜びの体験から幼児が自分で考え行動しようとする気持ちの基盤つくりのための援助をする。

②　幼児が他児の存在に気づけるような教師の援助（自己発揮・友達のよさに気づく）

ア　幼児が友達とかかわる中で，自分を主張し，自分が受け入れられたり，そうでなかったりなど葛藤体験を重ね，自分とは違う考えをもった存在に気づくことで，友達のよさが分かったり，自己肯定感が持てたりできる援助をする。

イ　友達と心を動かす様々な出来事を共有し，互いの感じ方や考え方，行動の仕方などに関心を寄せ，心が行き交うことを通して，次第に互いの心情や考え方などの特性に気づいていくための援助をする。

③　幼児同士のかかわりを促す教師の援助（友達と一緒に・協同的な遊び）

ア　幼児のやり遂げたいという気持ちを大切にし，幼児が自分なりの満足感や達成感を感じることができるように援助をする。

イ　幼児が友達と一緒に生活する中で,自分の思っていることを相手に伝えることができるように，また，徐々に相手にも思っていることや言いたいことがあることに気づいていくことができるよう援助する。

ウ　一緒に活動する幼児同士が，目的を共有し，一人では得られないものに集中していく気分を感じたり，その中で工夫し合ったり，力を合わせて問題を解決したりして，互いに生き生きするような関係性を築いていけるよう援助する。

## ４　教師の読み取りの視点と協同する経験、具体的援助について

幼児が「協同して遊ぶ」ようになるには，長い時間がかかる。教師は，幼児一人一人の人とのかかわりの経験の違いを把握しながら，人とかかわる力を徐々に育てていく必要がある。入園時から，一人一人の幼児の状況や課題に応じて，その時々に必要な援助を積み重ねていくことが重要である。そこで，幼児の姿を教師の読み取りの視点と協同する経験及び具体的援助を表にまとめてみた。（表１）

（表１）教師の読み取りの視点と協同する経験、具体的援助

| 教師の読み取りの視点 | 幼児の姿 | 協同する経験 | 教師の援助 | 環境構成 |
|---|---|---|---|---|
| ○幼児が教師や友達とのかかわりの中で安定を求める。<br>○生活の仕方やきまりがわかり，自分で遊びを広げていこうとする。 | ・自分で遊びを見つける子，教師に安定を求める子，他の子が遊ぶのを見ている子，不安な子などの姿がある。 | ・園の環境にかかわりながら気に入った場所を見つけて安定して遊ぶ。<br>・友達の遊びを傍観することを楽しみ自分なりにやってみようと思う。<br>・同じ場所にいる友達に関心をもち同じ動きをする。 | ・一人一人の気持ちに寄り添い心の安定が図れるようにスキンシップを大切にしながら，信頼関係を築いていく。<br>・幼児の気付きや驚き，感じたことを十分受けとめる。 | ・自分の居場所を見つけじっくり遊びに取り組めるような場や時間を確保する。<br>・幼児が遊びたくなるような素材，遊具，用具を準備し，様々な環境に出会えるようにする。 |
| | ・幼稚園生活にも慣れ，友達との触れあい，つながりもできてくるが，自我の主張も強く衝突がある。<br>・気の合う仲間数人の中で意思疎通が可能になって，自分の興味を追及したり，没頭したりするようになる。 | ・友達のしていることに気づき，真似をして遊んだり，気の合う友達と誘い合って遊んだりする。<br>・いろいろな素材や用具に関心をもち，友達と一緒に使って遊ぶ。<br>・さまざまな人やものとのかかわり多様な体験をする。 | ・一人一人が遊び込む姿や友達とかかわって遊ぶ姿を見守り，楽しさを共感する。<br>・教師は，幼児の気持ちを代弁したり，友達への思いの伝え方を知らせたりする。 | ・幼児が周りの幼児の遊びに気づいたり，自然にかかわりが生まれたりするように，遊びの場や動線を考えた環境を工夫する。<br>・教師や学級の友達と過ごす楽しさが味わえるよう，触れ合ったり，手遊びをしたり，学級活動を充実させる。 |
| ○友だちとの関係が広がり，それぞれの力を出し合って遊びに取り組み自己発揮する。 | ・友達に対する信頼や思いやりが芽生える一方，力関係への不安定がある。 | ・友達と自分の思いがぶつかり葛藤する。<br>・友達と一緒に試行錯誤しながら見立てて遊んだり，ごっこ遊びを楽しんだりする。 | ・幼児の気持ちを代弁したり，友達への思いの伝え方を知らせたりする。<br>・幼児が自分の思いを出しやすいように，小人数での活動も大事にする | 学級の皆で力を合わせたり，少人数のグループで活動したりする楽しさが味わえるような機会をつくる。 |
| ○友達関係を深めながら，自己の力を十分に発揮して生活に取り組む。 | ・友達の良い面がわかり，互いに認め合ようになる。<br>・友達に対する信頼関係や思いやりの心が芽生えてくる。<br>・同じ目的をもった幼児同士でグループをつくり，遊びの相談をするなど役割分担をして遊びを進めようとする。 | ・他児の思いに気付き，調整したり譲ったりしながら楽しく遊ぶ方を考える。<br>・友達と遊びのイメージを共有し，共通の目的を見つける。<br>・友達の話を聞いて自分の思いや考えを言う。<br>・友達のよさや考えを受け入れ，遊びを工夫する。 | ・教師が遊びに加わり，幼児同士の遊びのつなぎ役をしたりする。<br>・幼児同士が互いのよさに気付き，認め合えるように幼児の思いや考えをつないでいく。<br>・幼児同士でトラブルが解決できるように見守ったり仲介したりする。 | ・学級の皆で思いが共有できるように遊びを紹介したり，個々の思いを話したりできるような話し合いの場を設定する。<br>・幼児同士が共通体験できる場を多く設定する。 |
| ○就学に期待し目標をもって園生活を展開していく。 | ・グループや，学級のまとまりが見られるようになる。<br>・互いのよさを認め合い，役割分担しながら遊びや生活を進めていこうとする。 | ・友達と共通のイメージをもち，目的に向かって実現するために工夫する。<br>・互いの思いや考えを出し合い，折り合いを付けながら遊びを進める。 | ・友達と考え合ったり伝え合ったりしながら，自分たちで遊びをつくる楽しさや充実感が味わえるように，遊びを見守ったり，必要に応じて，遊びの仲立ちをしたりする。 | ・グループや学級で課題をもって取り組めるような活動の場を設定する。<br>・幼児同士が認め合い，遊びに高まりや学び合いができるよう，話し合いの機会をつくる。 |

## Ⅵ　研究の実際

### 1　検証保育（１回　11 月）「まとあて・めいろあそびってたのしいな！」

#### (1) 設定理由

運動会を終えて幼児数名で始めた積み木でつくった「迷路あそび」「まとあてあそび」に興味関心をもった幼児が自発的に取り組み，気の合う友達とのかかわり合いから，いろいろな友達とかかわり合う姿が見られるようになった。遊戯室という「共同の場」で展開されている「迷路あそび」を中心にした活動の中で，「自分もやってみたい，皆と一緒に遊ぶって楽しい，友達の考えに気づく」などの経験を重ね，一人一人の幼児が自己を発揮し，互いの考えや思いが伝わり，幼児同士の気持ちのつながり合いが生まれてくるような環境構成の工夫や教師の援助の在り方について考えてみることにした。

#### (2) 保育のねらい

・友達に自分の思いや考えを話したり，相手の話す事を聞いたりしながら，一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

#### (3) 検証のねらい

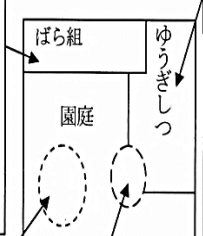
・幼児が互いに思いや考えを話したり，聞いたりしながら遊びを進める楽しさを味わえるような環境構成の工夫や援助をする。

#### (4) 指導案

**白川幼稚園　５歳児　【ばら組】　平成２３年１１月１７日(木)　指導案　男児１０名　女児１２名　計２２名　担任：神里　真利子**

| 幼児の姿 | ねらい・内容 |
|---|---|
| ・他のクラスの友達との関わり合いが見られ一緒に遊んだりするようになってきた。<br>・好きな遊びで集まるグループと気の合う友達で集まるグループがある。また、友達に関心を示すようになり友達とのつながりを喜ぶ姿(KR 男、GY 男)もある一方で、学級の中に一緒に遊ぶ友達を見つけられずにいるＳ男の姿もある。<br>・身の回りのことを自分でできる子もいるが、遊びへ入りたくて所持品の管理がおろそかになりがちな子の姿も見られる。 | ○共通のイメージに向かって、友達と思いや考えを出しながら遊びを進める楽しさを味わう。<br>・思いや考えを出し合って遊びを進めようとする。<br>・友達とルールを確かめたり、相談したりしながら遊びを進める。<br>・身の回りの事や生活に必要な活動を進んでやろうとする。 |

| 生活の流れ | ○予想される幼児の活動　※環境構成及び教師の援助　◎協同する経験 |
|---|---|
| 8:00<br>○登園<br>○好きな遊び<br>検証保育時間<br>9:45 ～<br>11:00 | ※一人一人を笑顔で迎え入れながら健康状態を把握する。<br>○ままごと、制作、折り紙遊び、絵本、秘密基地<br>・自分なりのアイディアをだし、工夫したりして作る。<br>・互いに考えや思いを出しながら遊ぶんでいる<br>◎「様々な感情体験、葛藤体験をする」(仲間は外れにされた悔しさ、友達を泣かせてしまう気まずさ)<br>※一人一人がその子らしく環境にかかわれるように援助しながら、個々のよさを他の幼児へ知らせていく。<br>※遊びのイメージを共通に持てるような教材や材料の提供<br>○サッカー、ドッジボール、ジャンケン陣取り、長縄<br>・体を動かすことを喜び友達や教師と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。<br>◎「友達と触れ合い一緒に遊ぶことを楽しむ」<br>※教師も一緒に遊び加わり楽しさを共感しながら皆とする遊びの楽しさを広めていく。<br>※白線を引き見えやすくしておく。<br>(全体的配慮事項)<br>※皆と遊ぶことではかかわりの少ないＳ男Ｒ男には友達同士で誘い合わせ参加する機会をつくり皆と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。<br>※安全面には十分留意する。<br>○砂遊び、ごちそう作りごっこ<br>砂で型抜きをしたり、ごちそうに見立てて遊んでいる。<br>◎「自分なりの方法で自分を出す」<br>※友達とのかかわりを楽しんでいるので、その様子を見守りながら必要に応じて援助していく。 |
| 11：00<br>○話し合い | ※幼児一人一人の遊びへの取り組みの中から、友達との関わり合いの場面ではどういう気持ちだったのかなどを聞いてあげたり、工夫して遊んでいる子のよさを取り上げたりして遊びのつなぎをしていく。 |




**★本日の検証の場面・・・・「めいろ遊び」・「まとあて遊び」**
**☆検証のねらい「幼児が互いに思いを考えを話したり、聞いたりしながら遊びを進める楽しさを味わう。」**

| ○予想される幼児の活動<br>「めいろあそび」では・・・・ | ◎協同する経験 | ※環境構成と教師の援助 |
|---|---|---|
| (切符売り場)<br>迷路をする子を並べ、切符を渡したり案内したりなど相談しながら進める。 | 友達とのつながりを喜び思いを伝えたりしながら遊ぶ。 | 切符作りや看板作りなど必要な材料を取り出しやすいように準備しておく。(画用紙、マジックパンチ、テープ、シールなど) |
| (わなコーナー)<br>お客がきたら、コーナーの説明をしたり教えたりする。 | 自分なりの方法で自分の思いや考えを発揮する。 | その子らしい言葉や動きの表現を受け入れ、ほめながら学級の中で紹介していく。 |
| (問題コーナー)<br>友達と一緒に問題を考えたり自分なりに考えたり問題やクイズを作る。 | 遊びの中でいろいろな友達とかかわる楽しさを味わう。 | 一人一人の良さを見つけながら、他の子へも気付かせていけるようにする。<br>問題を紙に書けるよう 50 音表、紙、マジックなどを準備。 |
| (はしご渡りコーナー)<br>梯子から落ちないように渡っている。 | 渡り方や遊び方を工夫しながら友達とかかわることを喜ぶ。 | 幼児同士のかかわり合いが楽しんでいるので，安全面に留意しながら見守る。 |
| ○「まとあて遊び」では・・・<br>まとあて遊びを考えたり工夫したりしている。 | 友達と一緒に作ることでかかわる楽しさを味わう。仲間に入る。 | 幼児一人一人の考えや表現を支えたり，遊びのイメージがもてるような材料を準備する。 |

11:15　○片づけ　　11:50○給食準備　　13:00　○給食○片づけ　　13:30○降園前のひととき　　○降園

## (5) 検証保育の結果

検証の方法は，「研究内容３」の協同する経験を深めるための環境構成や援助の在り方についての(2)の教師の援助の在り方　②幼児が他児の存在に気づけるような教師の援助と③幼児同士のかかわりを促す教師の援助から，事例１「まとあてあそび」，事例２「めいろあそび」で検証。

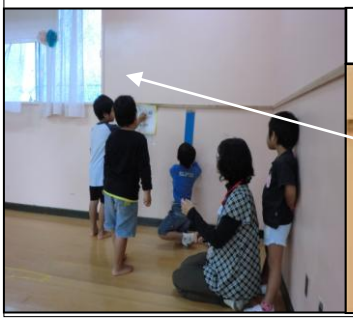
### 実践事例１「まとあてあそび」②幼児が他児の存在に気づけるような教師の援助

U男の考えた「まとあてあそび」が次第に他の幼児へ広がってきた中で，R男とJ男のかかわり合いから見えた事例。

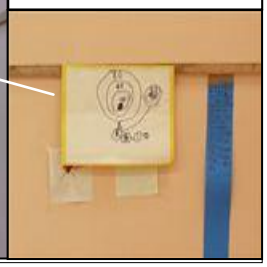
J男の自分中心にした「まとあて遊び」では，R男より優位という気持ちの表れだと捉え，そのやりとりの中で教師がR男のよさを受け入れながら，そのよさをJ男や周りの幼児に伝えていくことで，互いの気持ちに気づき一緒に遊ぶ楽しさを味わえるよう援助をする。

幼児の姿

遊戯室のまとあて遊びに数人の幼児とR男とJ男が遊び始める。しかし，①J男はR男に順番を代わらない。
R男「ぼくにもさせて，交代して。」と言う。
J男は聞かずに続ける。J男「僕，100点に当たった。」
②R男「違うよ。ここだったよ。ほら見てごらん」とボールを手にしてゆっくりと回転させ的当ての得点表(60点)の場所へ確実に止めた。
しかし，J男は納得せず2，3回まとあてを続ける。
Ⓣ「R男さんってすごいよく見ていたのね。ゆっくり動かすと点数がよく分かるんだね。」とR男の懸命な姿やよさを教師が受け入れ認める。次第に③J男はR男のよさに気づき始め，「R男，次はやっていいよ。」と交代をする。R男もJ男の気持ちを感じ応えようとして，J男の点数を60点でも「100点だよ。」と言ってあげる。
また，④J男もR男の楽しそうにやる動きを真似しながら一緒に遊ぶようになった。



まとあて得点表



教師の読み取り

①J男のR男に対してもいつも優位でありたいという思いからR男の話す言葉を聞かず自分中心の行動にでてきたととらえる。
②R男のこれまでため込んでいた発想や知的な部分が，動きと言葉で相手によく分かるように伝えられるようになってきたと考える。
③J男は，R男のよさや自分とは考えが違うことを，教師のR男を支える姿から感じるようになってきたと考える。
④自分の考えたことと違うけど「友達の考えたことっておもしろい」「友達と一緒に遊ぶのって楽しい」と感じることで遊びが継続し協同する経験につながったのではと考える。

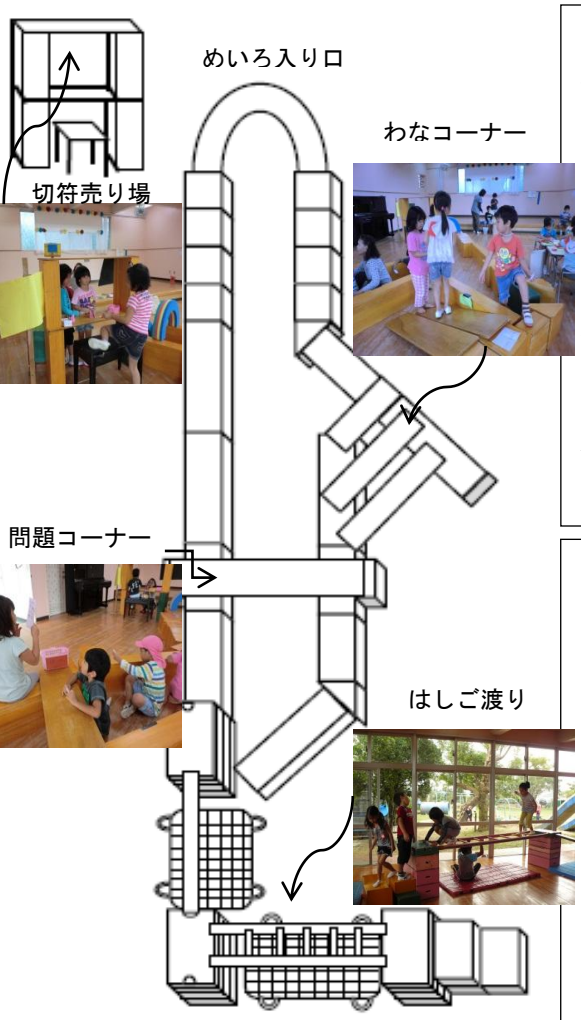
★教師の援助と☆環境構成の工夫
★R男とJ男の自己主張を受け止めその中で起きるトラブルの機会を両者が相手の思いに気づく機会ととらえ，教師が具体的な言葉でR男のよさを伝えたり，J男の気持ちを聞いたりしながら丁寧にかかわる。
★教師がR男の持ち味であるよさやR男らしい表現方法を受け入れることで互いの考えが違うことに気付かせていく。
☆幼児が継続して遊びを楽しめるよう場を整え必要な材料が使えるように準備をする。

| | |
|---|---|
| ○幼児の変容　※改善点 | ○R男とJ男が「まとあて遊び」の中でかかわることで，R男が自分の考えが教師に受け入れられ認められたことで，自分の思いをJ男に対して言葉で伝えたり，J男の思いを聞いたりしながら互いに気持ちがつながり一緒に遊ぶようになってきた。<br>○J男はR男の考えたスローモーションの動きを模倣することで，自分とは違う考えだけれどやってみると面白さがわかり，R男に目が向くようになってきた。<br>※R男とJ男の気持ちがつながりかけてきたので，そのよさを生活や遊びの中でどのように生かしていくのかが課題である。 |

## 実践事例２「めいろあそび」③幼児同士のかかわりを促す教師の援助

11 月 10 日(木)K 男を中心とした「恐怖のかいけつゾロリ」の話の内容から T 男,O 男,Y 男と一緒に積木の「めいろつくり」が始まる。(これまでも 4 人で積木構成遊びを楽しんでいる。)K 男の発想やアイディアから遊びが進められ，一緒に恐怖感を出すための「わな」コーナーや切符作りや入り口ができる。また，T 男は遊びを面白くしようと「問題」コーナーを作る。その中で，次第に互いに「めいろ」に対するイメージの共有化できるようになってきた。K 男たちが考案した遊びが他の幼児へ共感を生み受け入れられ，次第に幼児から幼児へと遊びが伝わり広がってきた。この「めいろ遊び」を通して，幼児が自分から遊びへ取り組み，友達と一緒に遊ぶことや同じことをすることで共にいることの喜びや友達とつながる喜びを味わっている。次第に互いに考えや思いを話したり聞いたりしながら遊びを進めるようになり，遊びのイメージが共有化されてきた。その過程の中で幼児が自己主張し互いのよさや違う考えがあることに気づき，様々な葛藤体験を重ねていくことが「協同して遊ぶようになる」ことにつながっていると考える。

○M 子と T 男が中心になり，「めいろあそび」にきた幼児のやりたい様子を感じながら互いに相談して遊びを進めている。
☆M 子が T 男のアイディアを受け入れ一緒に切符作りや切符売り場を経験する中で T 男と一緒に遊ぶと楽しいという気持ちにつながってきたと考える。
◎この遊びをきっかけに互いにかかわり合ってきたので，様子を見守る。




○「わなコーナー」は，積木上でジャンプすると板がしなりスリル感のある遊びをしている。R 子が自ら案内役になり，「年少さんや女の子はここは怖いので次へ進んで下さい。」と説明しながら友達とのやりとりを楽しんでいる。
☆R 子自身怖い思いや面白さを経験したことと友達とのやりとりの中で自分の考えが受け入れられた喜びを感じるようになってきたのではと考える。
◎わなコーナーを自分なりに考え言葉や体を使って表現しているので認めながら温かく見守る。

○クラスの友達とかかわって遊びを楽しむようになった Y 子自身「問題」をつくることから自己発揮するようになってきた。(ここでは他の幼児も問題作りをする)
☆Y 子自身がめいろあそびへ興味を示し取り組みそこでいろいろな友達とのやりとりの中で徐々に受け入れられていることを感じていることであろうと捉える。
◎友達関係を温かく見守りながら，本児のよさを周りの幼児に伝えるように心がける。

○積木とユニットサーフで構成されためいろあそびに「巧技台」をプラスしたことで，「はしごの下には怪獣がいる，はしごの下は海だから落ちないように渡ったらゴールできる」など発想や考えが幼児同士のやりとりで発展してきた。
☆巧技台の環境を提示したことで，より遊びがダイナミックになり，幼児同士のかかわり合いも多くなり，いろいろな考えが出てきたと考える。
◎安全面に考慮し，友達同士の交流が生まれてくるように環境を構成する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 幼児の変容 | ・どのクラスの幼児も興味を示して自分がやりたい気持ちでかかわるようになった。<br>・大勢の幼児がこの遊びを通して，友達とかかわり合いをもち役割分担が自然な形でできた。<br>・一人では味わえないダイナミックな遊びの中で，幼児同士が交流する経験になり，共通のイメージをもって遊びに取り組めるようになった。 | 改善点 | 幼児の興味や関心，動線を大切にしながら，活動の充実に向けて幼児と共に環境を構成し，再構成し続けていくこと。 |

## ２　検証保育（２回　１２月）～お店屋さんごっこに発展して～

### (1) 設定理由

前回の検証保育から，幼児の興味や関心，動線に沿った教材や材料の提示の工夫と環境の再構成の工夫が課題としてあった。

幼児が互いにかかわりを深め，共に活動する中で，みんなでやってみたい目的が生まれ，工夫したり，協力したりするようになっていくための経験ができるような援助や環境を設定していくことが大切であると考えた。

今回の検証保育においては，学級全体での目的を提示し，これに向かって数人のグループで目的をつくり出す経験ができる「お店屋さんになって遊ぼう」の活動を取り入れ，幼児同士が試行錯誤したり，互いに気持ちのつながりを感じたりしながら遊びをつくり出していく楽しさを味わわせていきたいと思い設定した。

### (2) 保育のねらい

・自分の思いや考えを伝えたり友達の話を聞いたりしながら，遊びを進めようとする楽しさを味わう。

### (3) 検証のねらい

・幼児が友達と一緒に活動する中で，共通の目的を見いだし，工夫したり，協力したりする楽しさや充実感を味わうようになるための環境構成の工夫や援助の工夫をする。

### (4) 検証保育の展開

| | 検証ねらい | 幼児の姿 | 教師の読み取り | ★援助　☆環境構成　改善点 |
|---|---|---|---|---|
| 11月25日(金) | お店屋さんの話しをすることで期待感をもたせる。 | ・地域の豊年祭や都市部各種での「まつり」の経験をしたことが多く，出店のイメージからエイサー，獅子舞，ゲーム，金魚すくい，くじ引き，おもちゃ屋，かき氷，お菓子屋などの店名が出る。 | ・地域行事への参加や，都市部への各種「まつり」を経験した幼児が多くいたことから，「ゲーム屋」と「食べ物屋」が多く出たと考える。 | ★☆幼児から出てきた言葉を丁寧に聞きながら，黒板に貼ってある画用紙に書き出し，幼児にお店屋さんのイメージをもたせていく。 |
| 11月28日(月) | グループ作りややりたいお店屋さんの話を進められるように援助の工夫をする。 | ・気の合う友達と誘い合ってグループつくりをする。<br>・なかなか決められずいる子や入りたくても言えずに涙ぐむ子の姿もある。<br>・グループによっては，互いにやりたいお店の名前を話したり聞いたりする姿や自分の考えが言えない子，出せない子の姿もある。 | ・遠足でのグループ経験が生かされ自分たちで決めることができる。<br>・互いに自分の気持ちや思いをうまく言葉で友達に伝えることができずにいるからだと考えた。<br>・用紙に各自が名前を書くことで，友達と一緒にお店屋さんをやるという気持ちがもてるようになってきた。 | ★自分から入りたい気持ちを言えずにいる子の思いや気持ちを幼児へ伝えることで，友達の思いに気付かせていく。<br>★自分の意見や思いを通そうとし意見がまとまらずバラバラになりそうな所へは教師も一緒にかかわりながら一人一人の考えが出せるよう援助する。 |
| 11/30(水)・12/2(金) | 友達と一緒に考えを出しながら遊ぶ楽しさを味わわせる。 | ・気の合う友達とのかかわり合いながらいろいろな物を作ることを楽しんだり,作ったもので,お店屋さんになって遊んだりする。 | ・お店屋さんごっこの中で，友達と協力したり遊びの工夫をしたりする経験を通して友達と一緒に遊ぶことの嬉しさや楽しさにつながってきた。 | ☆物の提示や置き場所は前日の続きや興味関心など幼児の動線に応じて構成する。<br>☆前日の話し合い活動から，幼児が自分なりのイメージの世界で楽しめるように，イメージを表現するための道具や用具，素材を用意し，幼児と共に環境を構成する。 |
| 12月5日(月) | 遊びの相談や工夫しながら,幼児同士で遊び進められるようにする。 | ・それぞれのやりたいお店屋さんを自分たちで進めたりしている。<br>・他のクラスの幼児とかかわって遊ぶ姿がある。 | ・グループの中で互いの考えや話したり聞いたり，試行錯誤したりする中で，一緒に遊んできた経験から友達とイメージを共有できるようになってきたと考える。 | ★グループ同士のかかわりや遊びがつながるような幼児の動線に配慮して,素材や材料，用具などの環境を整える。<br>★多様なイメージを引き出す道具や用具，素材を工夫し，それらに幼児が日常的に触れていく環境を工夫する。 |

本時　12月6日(火) 保育の展開

**白川幼稚園　５歳児　【ばら組】　平成23年12月６日(火)　指導案　男児１０名　女児１２名　計名　　担任：神里　真利子**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 幼児の姿 | ・「お店屋さん」のイメージを友達に伝えようとしたり，友達のイメージを聞いたりして一緒に活動しようとする姿が見られる。<br>・グループの友達や教師とかかわりながら，「お店屋さん」「品物つくり」「ゲーム屋さんつくり」に取り組み楽しんで遊ぶようになってきた。<br>・グループとして一緒にやるという気持ちがまだ持てない子の姿もあるので，援助していきたい。(R男，J男，S男) | ねらい・内容 | ○自分の思いや考えを伝えたり友達の話を聞いたりしながら遊びを進めようとする楽しさを味わう。<br>・グループの中で自分の思いや考えを出そうとする。<br>・友達の思いや考えを聞いて一緒に遊びを進めていこうとする。<br>・身の回りの事や生活に必要なことを進んでやろうとする。 |

| 時間 | ○予想される幼児の活動 | ◎遊びの様子　★教師の援助　☆環境構成の工夫 |
|---|---|---|
| 8：00<br><br><br><br>検証<br>保育<br>9：30<br>～ | ○順次登園<br>・挨拶をする<br>・朝の身支度を整える<br>○好きな遊び<br>サッカー，ドッジボール<br>遊戯室，秘密基地<br><br>室内で<br>「お店屋さんになって遊ぼう」<br><br>～共通の目的に向かって～<br><br>・ダーツゲーム屋<br>・コロコロゲーム<br>・おしゃれ屋さん<br>・秘密基地ごっこ<br>・作って遊ぼう | ★一人一人を笑顔で迎え入れながら健康状態を把握する<br><br>★幼児同士のかかわりを深めていく援助として･･･<br>・幼児のアイディアや発想を教師が受け入れ，周りの幼児に伝えたりしながら，互いがよさに気づいていけるよう援助する。<br>・教師が遊びの仲間に入り，一人一人が十分に考えを話したり，聞いたりすることできるように援助する。<br><br>☆友達と楽しく遊ぶ中で，次第にイメージが共有できるような環境構成の工夫として･･･<br>・前日の幼児の興味･関心，動線に応じて，お店屋さんらしくなるような材料や素材などを用意し，遊びに主体的に取り組めるようにする。<br><br>★友達と遊んできた中で，工夫したことや発見したこと，良かった事などを出し合い，共通の話題にしていく。 |
| 10：45 | ○話し合い | |
| 11：00 | ○片付け | ★話したがる子が予想されるので，一人一人の思いを大事に受け止めていくよう配慮する。 |

**ダーツゲーム屋**(R，U，G，O)男

◎昨日の続きからG男が風船を膨らませ結び，それをR男とO男が段ボールに取り付けるなど役割分担をしている。

◎「お家みたいに作ろう」「看板もつくろう」など自分なりのイメージを出しながら積木や段ボールを壁に見立てたり，看板作りや必要な物を作ったりする。

★教師も遊び仲間に入りながら，幼児同士の思いや考えの伝え合いができるように援助する。

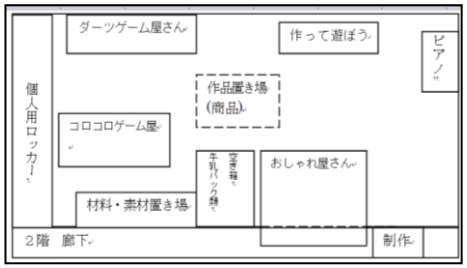
☆ダーツゲーム屋のイメージが共有できるような素材や材料などを準備し，試したり工夫したりできるようにしていく。

**秘密基地や製作遊び**(K，T，O)男

◎気の合う友達とダーツゲーム屋と秘密基地を行き来しながら，遊びを楽しんでいる。

★気の合う仲間関係なので，遊びの様子を見守り，他の幼児とのかかわり合いがもてるように援助していく。

☆K 男は，前日までダーツゲームの商品つくりとして動くおもちゃ作りを楽しんでいるので，続きができるよう実際に動くおもちゃを提示し友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わわせていくようにする。




**ころころゲーム屋さん**(N，S，J，OR)男

◎グループとしてのかかわりが弱く教師を媒介にして遊ぶが，それぞれの思いで遊ぶので，気持ちのぶつかり合いが生じトラブルもある。

★一人一人の動きや思いじっくり受け止め遊びの様子を見たり，互い思いを仲介したりしていく。

☆作ったゲームを教師もじっくり一緒に遊ぶことで遊びの楽しさや面白さを気付かせたい。

**おしゃれ屋さん**(Y，N，S，H，M，R)子

◎髪の毛を梳かしたり結んだり，パーマ屋のイメージで遊んでいる。自分をおしゃれしたり，友達や教師をきれいにしたりするなどかかわりながら遊んでいる。

★Y子のネックレスをつくりたい思いと，自分を出せないR子やM子の考えや思いを引き出して，グループの友達との中で気持ちのつながりがもてるよう援助する。

☆それぞれの幼児のやりたい，つくりたいという気持ちに沿った材料や素材を提示し，パーマ屋のイメージが共有できるようにする。

**作って遊ぼう**(I，K，W，Y，J，B)子

◎本物の食べ物をつくってのお店屋のイメージがあり，自分たちで計画を立てて食べるものをつくったり，おしゃれ屋で使う物をつくったり，クリスマスに向けた飾り物をつくったりして楽しんでいる。

★☆前日の話し合いから，かき氷をつくる計画が予想されるので場の確保や道具などの準備をする。また，衛生面，安全面には特に留意する。

反省評価

○互いに思いや考えを友達に伝えたり，話を聞いたりしようとすることができたか。

○友達と一緒に遊びを進めようとしていたか。

### (5) 検証保育の結果

検証の方法は，「研究内容３」の協同する経験を深めるための環境構成や援助の在り方についての(1)の環境構成の工夫の在り方　②興味や欲求に応じた環境の構成から，**「お店屋さんになって遊ぼう」の実践**を検証する。

**実践事例　「お店屋さんになって遊ぼう」**

幼児の遊びのイメージや興味関心の広がりを読み取り，イメージを共有化し実現できるような空間や場の在り方、表現できるような道具や用具，教材，素材などの環境構成の工夫することで，友達と一緒に遊ぶのって楽しい，互いの考えやよさに気づいたり，遊びの工夫や協力したりする姿が見られるようになり，次第に協同して遊ぶようになってきた。

| グループにおける幼児の姿 | 環境構成の工夫 | 教師の読み取り |
|---|---|---|
| ダーツゲーム<br>風船を膨らませたり，取り付けたり，役割分担をしたりしている。また，風船がついてくると風船を割る素材を見つけて，作る幼児もいる。さらに，「お家みたいに作ろう」「看板も作ろう」「真ん中にも風船つけたいから移動しよう」など相談しながら遊ぶようになりイメージの共有化につながっている。<br> | 幼児のもっているイメージがどのように遊びの中で表現されているかを理解しながら，そのイメージが楽しめるように，イメージを表現するための道具用具，素材などを用意し，幼児と共に環境を構成する。(空き箱・牛乳パック・容器類・芯・割り箸・ストロー・風船など)<br> | 自分のやりたいことが充実し、目的を持ち自分らしく動いたり遊んだりできる仲間関係があり、そこで自然に役割分担をしたり協力したりするなど、互いの思いや気持ちがつながるようになってきたと考える。また，素材を使って，家に見立てたり，看板を書いたり，模様替えすることは，自分たちで遊びをより楽しくしようとする気持ちの表れだととらえる。<br> |
| おしゃれ屋さん<br>遊びに必要なものを作り(髪飾り，リボン),お客さんとのかかわりを喜び,共通のイメージで遊びを進めることができた。<br>作って遊ぼう<br>自分なりにクリスマスの飾りやおしゃれ屋の飾り作りを楽しんだり，おしゃれ屋さんへ出かけて，髮の毛をおしゃれしたりなど、友達とのかかわりを楽しむ姿が見られる。<br> | グループ同士のかかわりや遊びがつながるような幼児の動線に配慮して，素材や材料，用具などの環境を整える。(ビーズ・スパンコール・りぼん・松ぼっくり・ボンド・ペットボトルのふた・カップ類・セロハンテープ)<br> <br> <br>ままごとコーナーがおしゃれ屋さん達の居場所 | おしゃれ屋さんのイメージが「パーマ屋さん」ごっこに発展していったのは，普段から一緒に遊ぶ仲間関係であり，生活を通してどの子も「パーマ屋」を経験しているから，共通のイメージの中で楽しく遊ぶことができるようになり協同する経験を重ねているととらえる。<br> <br> <br>おしゃれやさんの受付コーナー |

〈幼児の変容〉
・「お店屋さん」ごっこ遊びを通して，友達と一緒に活動する楽しさを味わい，互いに思いや考えを出し合いながら協力したり工夫したりする姿から，友達関係が広がり深まりも見られるようになってきた。
・幼児の興味や関心に応じた教材や素材などの提示や幼児の動線に配慮した環境構成の工夫や援助をしたことで，前日から翌日への遊びの意識があり，継続的に活動できるようになってきた。
・幼児のイメージが表現できるような教材や素材などを準備することで，幼児がお店屋さんに対する考えやアイディアを出し合うようになってきた。
〈改善点〉
・一人一人のイメージを引き出しながら，グループの中で自己発揮できるような環境構成の工夫や援助をする。
・「お店屋さん」ごっこに発展した遊びを，園行事である「親子バザー」へつながるよう見通しをもち，幼児が主体的に楽しく取り組めるための指導計画の工夫を図る。

## Ⅶ　研究の成果と今後の課題

### 1　研究の成果

(1) 幼児が自分の思いを教師に受け止められていることを実感し，安心して遊びに取り組める環境をつくることで，幼児が自分らしく遊び，自己発揮できるベースとなった。(Ⅵ－１－(5))
(2) 幼児の心の動きや興味・関心をとらえ，幼児同士の遊びが継続できるように援助や環境構成の工夫をしたことで，自分の考えや思いを話したり，相手の思いを聞いたりしながら遊びを進められるようになった。(Ⅵ－１－(5))
(3) 幼児が共通の目的をもって一緒に遊ぶことを通して，友達と一緒に何かをして遊ぶのは楽しい，友達となら一人でできないこともできる，違う考えがあるんだということに気づき，一人一人のよさが遊びの中で生かされてきた。(Ⅵ－２－(5))
(4) 協同する経験を積み重ねる中で，友達関係が広がりかかわりが深まるにつれ，幼児同士がイメージを共有しながら実現しようと遊びを工夫したり協力したりする楽しさを味わうようになってきた。(Ⅵ－２－(5))

### 2　今後の課題

(1) 幼児にとって豊かな体験ができるように意図的・計画的な援助や環境構成の工夫。
(2) 幼児の内面にある気持の動きや学びの読み取りと幼児理解の充実。

**＜主な参考文献＞**


文部科学省　「幼稚園教育要領解説」　2008 年
西久保礼造著　「改訂保育用語辞典」　1995 年
小田豊/神長美津子・編著　「幼稚園教育要領の解説」ぎょうせい　2009 年
友定啓子/小田豊・編著　「保育内容　人間関係」　光生館　2008 年
無藤隆・柴崎正行編「新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて」　2009 年
兵庫県教育委員会発行　「指導の手引き」　2010 年